

浴衣を着て盆踊り大会

2 班 ジャン・シーモン (中国)

今年の夏は例年よりも暑かったですが、8月初旬に
 広場の真ん中には盆踊り大会の舞台が早くも立てられ、
 カラフルなちょうちんがとても目を引き、だんだんに
 ぎやかになりました。

盆踊りの少し前、市岡日本語教室で盆踊りの練習
 をしました。ボランティアの高田さんと大城さんが、
 私たちに盆踊りを教えてくれました。炭坑節やドンパ
 ン節、河内音頭などいろいろな伝統的な踊りを習って楽
 しかったです。踊りの練習は4回ありました。私はそ
 の内3回に参加しました。

盆踊り大会の日、大城さんは私に浴衣を貸してくれ
 ました。そして着せてくれました。初めて浴衣を着て、
 みんなと歌に合わせて踊っていると、心に幸せな気
 持ちが生まれました。

舞台の周辺にいる観客はお互いに話しながらお茶
 やビールを飲んで、時々踊りの輪に加わって一緒に踊
 っていました。私は知らない踊りを、上手に踊る人の見よ
 う見まねで

踊りました。
 踊るチーム
 が舞台の
 中心に同
 じ方向に進
 んで、流れ
 る川のように
 になりました。
 これは生命
 の象徴で
 しょう。

盆踊りは
 日本のお祭
 りのひとつ



です。みなさん一緒にお祭りに参加しましょう。

多文化カフェの感想

3 班 シュ・ルーチュン (台湾)

10月12日に行われた港区民まつりの多文化カ
 フェというイベントに参加して、とても楽しかったです。

たくさんの
 日本の方がブ
 ースに来て、
 私たちと話し
 ました。台湾
 なので、「台湾
 に行ったこと
 がありますか」
 と聞きました。
 台湾に行った
 ことがある人

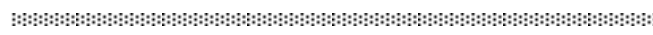


もいて、とてもうれしかったです。行ったことがない人
 にも、日本のどこが楽しいか聞いてみました。

一番印象に残っているのは、81歳のおばあさんです。
 私は「大阪でどこが楽しいですか」と聞いたところ、
 梅田と難波をおすすめしてくれました。以前から日本
 は平均年齢が高いと聞いていましたが、本当にそうだ
 なと思いました。そのおばあさんはとても元気で、「こ
 れから5年間、友達と仲良く過ごして、いろいろな所
 へ行きたい」という小さな願いを話してくれました。
 もし86歳になっても、また次の5年の計画を立ててい
 るかもしれません。最後に、「あなたたちはまだ若いん
 だから、がんばってね!」と言ってきて、心が温か
 くなりました。81歳のおばあさんでも目標を持って、
 楽しく生きている。それなら、まだまだ人生が続く私
 たちは、もっと一日一日を大切に生きるべきだと思い
 ました。

外国人として、海外でいろいろな文化の人と文化の

ちが はな ほんとう おもしろ にほん かた
違いについて話すのは本当に面白いです。日本の方は
はな はや わたし わ
話すスピードが速いですが、私 が分からないところを
やさ せつめい
優しく説明してくれました。またこのようなイベント
があつたら、ぜひ参加したいです！



秋の遠足 今井町

1班 箱山 広介

11月9日は朝から生憎の空模様。記録的な猛暑とな
った夏もやっと終わり、肌寒い中傘を片手に家を出る。
つるはしえき た さんかしゃ ごうりゅう しゅうごうばしょ やまと
鶴橋駅で他の参加者とも合流して集合場所の大和八
木駅に向かう。何人かは途中合流が上手くいかずに
ぎえき む なんにん とちゅうごうりゅう うま
若干遅れて到着 ということで、僕は二手に分かれた
だいにじん いまいちよう ある だ
第二陣で今井町に歩き出す。

ことし はる いちおか さんか ぼく はじ
今年の春から市岡に参加している僕はこれが初めて
の遠足。一週間ぐずぐずしていた風邪もだいぶ良くな
り、水溜りをよける足取りも軽い。町内に一歩足を踏
み入れると、江戸時代以降の古民家が当時のように立
ち並び、降る雨が情緒を増す。



かわらや ね のきした め すこ さんさく あと いまいちよう めい
瓦屋根の軒下を縫って少し散策した後、今井町の名
家今西家に集まって、ご当主の奥様から今西家住宅
の歴史を聞かせてもらった。学習者のためにいつもよ
りわかりやすく説明していただいたが、巧みな話術と
きょうみぶか ねっしん みみ かたお
興味深いエピソードにみんな熱心に耳を傾けていた。
おだのぶなが か し こくほう かたな いちどうこうふん もともと
織田信長から下賜された国宝の刀には一同興奮。元々
は上杉謙信が信長に贈ったものということもあり、鞘
しかなくても嬉々として写真に収めていた。

ちゅうしょくご み た さんかしゃやすめい べつ こみん
昼食後にもまだ見足りない参加者数名と別の古民
家を見学し、一度解散して藤原京跡まで残ったメンバ
ーで歩くと、灰色の空の下色とりどりのコスモスが咲
き乱れていた。何もない草っ原と昔 覚えた万葉歌に出

やまやま なが ゆうきゅう わかし おも は
てきた山々を眺めながら、悠久の昔に想いを馳せる。

この日は普段の教室ではあまり交流する時間のな
い人とも話をする機会があり、また少し輪が広がった。

もう20年以上前、まだフランスに行つて間もない頃、
フランス語がよくできない僕を時々友人たちが美術館
や名所に連れて行ってくれた。聞いたことも読んだこ
とも全ては理解できなかったけれど、そんな僕に付き
合つて彼らの文化や歴史に触れさせようとしてくれた
友人たちも含めて、楽しい時間だった。そんなことを思
い出しながら、この日の遠足が学習者にとってもボラ
ンティアにとっても、いつか時々思い出すような一日
になればいいなと独り言ち、家路に着いた。



時間がゆっくり流れる町、倉敷

4班 チョウメイ 晁銘（中国）

倉敷の町には、時間が少しゆっくり流れている気が
する。駅を出て、美観地区へ向かう小道を歩くと、白壁
と瓦屋根の建物が並び、どこからか川の水音が聞こえ
てくる。観光客の笑い声が遠くで響いても、この町は
静けさを保っている。急ぐ人も、焦る時間も、ここには
いない。まるで昔の日本の絵巻の中に迷い込んだよ
うだった。

倉敷で出会ったもののの中で、いちばん忘れられない
のは、あの桃太郎からくり博物館だ。木でできた桃太郎
の像が、柔らかな光を浴びて立っていたのだ。少し丸
みを帯びたその姿は、どこか懐かしく、子どものころ
に読んだ絵本の一場面を思い出させる。

気がつけば、その像に導かれるように「桃太郎から
くり博物館」の入口へと歩いていた。中に入ると、木の
ぬくもりに包まれた小さな空間に、十数種類の不思議
なからくりが並んでいた。桃の中から顔を出してシャ
ッターを切る瞬間、まるで自分が本当に「新しい桃
太郎」として生まれたような気がした。

橋の上で立ち止まり、風に吹かれながら思う。倉敷と
いう町は、昔話のように穏やかで、静かに人の心をつ
包んでくれる場所だ。

* * *

（投稿者は2024年に来日し、大学で経営学を学ばか
たわら、旅行が好きなおことから、ツアーコンダクター
の資格を取るための勉強をしています。）